

懐徳堂は、享保9年(1724)、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献しました。一時は、江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇ったと伝えられ、中井竹山・履軒兄弟をはじめ、富永仲基・山片蟠桃などのすぐれた学者を輩出しました。

明治2年(1869)に一旦閉校した懐徳堂は、大正5年(1916)に再建されます。この学校は、昭和20年(1945)の大坂大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれました。戦災を免れた3万6千点の資料は、昭和24年(1949)、大阪大学文学部の設立を機に、(財)懐徳堂記念会から阪大に寄贈され、以後は、大阪大学と記念会とが協力して各種事業を展開しています。

WEB 懐徳堂

懐徳堂研究の総合サイト
http://kaitokudo.jp/

21世紀を迎え、懐徳堂は新たな展開をとげようとしています。

文庫資料の総合調査、電子情報化事業の成果を、「WEB懐徳堂」として集大成したのです。
(このサイトは、大阪大学文学研究科の懐徳堂センターが運営しています。)

「懐徳堂文庫電子図書目録」

昭和51年(1976)に刊行された『懐徳堂文庫図書目録』を電子情報化したものです。この目録は、すでに絶版であるため、全ページを画像として提供するとともに、目録の研究や補遺作業を共同で推進し、その結果を逐次WEB上で追加していくこととしました。

「懐徳堂文庫データベース」

大阪大学創立70周年記念事業として、平成13年5月に公開されたデジタルコンテンツを、WEB版に再編したものです。懐徳堂の貴重な資料の画像と詳細な解説によって、学生から研究者まで興味深く閲覧することができます。

文化庁の「文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>)」が公開されました。これは、わが国のすぐれた文化遺産を総覧するために、インターネット上に設けられたポータルサイトです。

懐徳堂センターでは、文化庁からの委嘱により、この「文化遺産オンライン」への参加を目指して、懐徳堂文庫のデジタルアーカイブ化を進めています。



この事業では、これまで外部に公開されることのなかった大型の器物類(屏風・掛け軸など)や近年収集された新たな貴重資料を中心に、高精細なデジタル画像を蓄積し、データベースの拡充に努めます。



文化遺産オンラインとの連携

懐徳堂センターでは、この成果を「WEB懐徳堂」に反映させるとともに、「文化遺産オンライン」との連携を図ります。懐徳堂文庫の貴重資料が全国の文化遺産とともに、電子情報として広く公開されるのです。

WEB懐徳堂
<http://kaitokudo.jp/>



文化庁「文化遺産オンライン」
<http://bunka.nii.ac.jp/>

